第 32 回　設楽ダム魚類検討会
議事概要

日　時：平成 27 年 8 月 31 日（月）　13:00～16:00

1. 設楽ダム魚類検討会検討経緯

・これまでの魚類検討会の経緯やその成果、保全検討の流れについて説明を行った。
・飼育繁殖技術がある程度向上している状況から、改変区域内の個体の移植後の不確実性、自然減耗を補完するため、個体群の系統保存と補完的な移殖を実施する進め方について了解された。

2. 繁殖用親魚の採捕結果

・今年度の繁殖用親魚の採捕検討及び採捕結果について報告した。
・今後の繁殖用親魚等の採捕方針(案)について提示し、個体群シミュレーションにより在来の個体群に影響を与えない範囲で飼育繁殖技術の向上を考慮した採捕の考え方の検討を進めることについて了解された。

3. 飼育繁殖状況

・今年度のネコギギの飼育繁殖状況及びギギの人工授精試験の結果について報告した。
・Ａ施設では、雌個体の成熟を例年よりも進行させることができたが、水槽による飼育では孵化仔魚は得られなかった。餌や水温等の管理状況を踏まえ、その要因の分析と、他の繁殖事例を踏まえて検証を行い、今後の改善方法(案)を次回報告することとした。
・Ｂ施設では、屋外試験池による飼育により、3 ペアのうち 2 ペアでネコギギの繁殖が確認されたことから、飼育繁殖技術について一定の成果を確認した。また、今回の事例について、繁殖した石組みの間隙や繁殖前後の行動観察結果などを分析し、次回報告することとした。
・今後整備を行う新規の飼育繁殖施設の整備方針について提示し、継続して進めることを報告した。
・過年度成功したギギの卵の搾出及び人工授精試験を再現できたことについて、その要因を分析し、次回報告することとした。なお、ネコギギの飼育繁殖技術について一定の成果を加味して人工授精試験の目的を再整理し、次年度のネコギギの人工授精試験の進め方について次回提示することとした。

4. 放流実験

・今年度の放流実験結果について報告した。
・過年度より実験を行っている実験箇所Ａでは、放流した個体の一部が約 2 年 4 ヶ月経過後の調査時点においても継続して確認されていることを報告した。
・新規実験箇所Ｂでは、放流した個体の一部が放流後約 1 ヶ月経過後も確認されていることを報告した。なお、今回の調査では、個体が保全対策工で確認されなかったことから、確認手法の再検討を含めてモニタリングを継続し、秋季調査結果をもとに放流個体の利用箇所や餌環境、浮泥の状況を分析し、ハビタットモデルの評価を行うこととした。また、その結果を反映した環境改善を検討することとした。
・環境改善の検討にあたっては、屋外試験池での情報を反映して検討を進めることとした。

5. 繁殖場実験（野外で繁殖用巣穴の物理特性を把握する実験）

・今年度の繁殖場実験結果(速報)について報告した。
・今年度の繁殖場実験のとりまとめとして、自然繁殖が確認された間隙、されなかった間隙の物理環境、Ｂ施設の繁殖巣穴の環境を比較し、次回検討会で報告することとした。また、ピンポイントの評価だけでなく面的に淵の中のどのような箇所で自然繁殖しているかの評価についても今後検討することとした。
・上記の結果をふまえて、自然間隙の物理条件を模した人工的な構造物等を検討し、今後屋外試験池での実験を進めることとした。

6. 豊川におけるネコギギ流域保全

・豊川におけるネコギギ流域保全の一環として行っている生息適地モデルの解析結果について、降水量・降雨強度による環境要因の検討を行った結果を説明した。
・今後は異なる環境要因とあわせた解析手法においても、今回と同様な環境要因を含むモデルが形成されるか検証し、その結果を報告することとした。

7. 関係機関協議

・関係機関協議の状況について報告した。

8. 設楽ダム事業の工事の状況について

・今後の仮設道路の施工予定について説明を行った。
・仮設道路の施工にあたり、ネコギギが生息する淵に近い部分の基礎工事については、振動等の本種への影響を小さくするため、繁殖期の 6～8 月を避けて施工することで了解された。
・ネコギギの生息状況を踏まえ、工事に合わせて環境改善の試験的な実施の可能性も検討することとした。

9. 今後の調査・検討予定

・今後の調査・検討予定について報告した。

10. その他

・ダム供用後の環境保全措置施設等の運用にあたっては、ダム下流河川に生息するネコギギへの影響も検討したいことを説明した。
・流域の他事業との関連や調整は、豊川上流域工事環境情報会議により情報共有を図っていることを説明した。

以上